

XIIIth International Symposium on Non-Oxide Glasses and New Optical Glasses 参加報告

神戸大学大学院自然科学研究科

宮宇地 晃一

Report on the XIIIth International Symposium on Non-Oxide Glasses and New Optical Glasses

Koichi Miyauchi

Division of Molecular Science, Graduate School of Science and Technology, Kobe University

2002年9月9日から13日の5日間にわたり、チェコ共和国のパーデビッツ(Pardubice)大学にて、第13回 International Symposium on Non-Oxide Glasses and New Optical Glasses が開催された。

パーデビッツはチェコ共和国の首都プラハから東へ100kmの場所に位置し、東ボヘミア地方の経済と文化の中心として知られた町である。朝晩は多少肌寒いものの、日中は非常に快適な気候であり、空気も新鮮で清々しく感じられた。また、食べ物も安い上に大変おいしく、非常食としてカップ麺をスーツケースに詰め込んで行ったことを後で後悔したほどだ。

海外ではトラブルがつきものだとはよく聞けるが、この町へ到着するまでには、いくつかトラブルがあった。チェコ共和国へは日本からの直行便がないため第三国を経由する必要がある。今回、オーストリアのウィーン経由でプラハへ向かったのだが、荷物がウィーンで積み残しになってしまったのだ。係員に抗議しても「明日

ホテルに届きます」の一言。明くる日、荷物は無事ホテルに届いたのだが、事前に予約しておいたプラハからパーデビッツまでのミニバスがいくら待ってもこない。別の手段をと考え始めた3時間後、運転手らしき人がネームボードをもって現れた。会議のオープニングセレモニーが始まろうとしていたその頃、共に待っていた参加者を乗せたミニバスは、パーデビッツに向けて田舎道を猛スピードで走り抜けた。その運転の荒っぽさは尋常ではなく、道中幾度となく足を踏ん張り、目をつぶったほどだ。後日、帰る際にも同じ運転手にお世話になったが、途中スピード違反で捕まり、罰金を払う羽目になったこともうなずける。

さて、この会議は、ハライド系ガラスに関する会議として始まり、非酸化物系ガラス、そして、これに新規光学ガラスを加えることにより分野を広げてきた歴史を有しており、2年毎に開催されている。今回の参加人数はおおよそ180名で、その内訳は、ヨーロッパ各地から140名、アメリカから18名、アジアからは23名であり、日本からは14名であった。会議は、連日、朝8時半から夕方7時まで、2つの会場

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
神戸大学大学院自然科学研究科
TEL/FAX 078-803-5679
E-mail: miyauchi@gradis.scitec.kobe-u.ac.jp

で平行して行われた（時間帯により1会場でのプレナリーセッションの場合もあった）。講演は Lucovsky 教授によるレクチャーをはじめとして、18 件の招待講演、62 件の口頭発表、147 件のポスター発表が行われた。

発表内容の構成について以下にまとめる。

1. Synthesis, structure and properties of glasses (51 件)
2. Halides and other glasses (19 件)
3. Amorphous films, photoinduced effects (29 件)
4. Computer modeling, Constraint theory (8 件)
5. Non-linear properties, Photonic band gap materials (3 件)
6. Rare-earths doped glasses (38 件)
7. Photonic applications (29 件)

括弧内の数字はポスターセッションを含めたすべての発表数を示している。ガラスの合成、構造と物性のセッションが最も多く、これをさらに詳しくみると、カルコゲナイド系について

は 31 件、ハライド系は 12 件、その他 8 件となっており、会議全体を通して感じたことだが今回はカルコゲナイド系についての発表が目立っていたように思う。基礎研究がほぼ終了しつつあるハライド系ガラスに対し、カルコゲナイド系については、近年飛躍的な機能増大が報告され、その可能性に注目が集まっていると考えられる。

会議 1 日目は、午後からオープニングセレモニーがあり、引き続き、Lucovsky 教授によるレクチャー、4 件の招待講演があった。その後、Ovshinsky 賞の受賞セレモニーと受賞者である Lyubin 氏による講演があった。私は会場への到着が遅れたため、残念ながら聞き逃してしまった。しかし、夜に開かれたウエルカムパーティーには参加することができた。世界各地から集まった参加者たちによる立食パーティーは夜遅くまで大いに盛り上がっていた。

2 日目は、カルコゲナイド系ガラスおよび薄膜についての光誘起効果を中心とした発表および、構造および物性についての基礎研究に関する発表が行われた。全体的にディスカッションも活発であった。夕方からは、1 回目のポス



写真 会議出席者の集合写真（会場入り口にて）